日本共産党 和歌山市会議員
ひめだ高広ニュース
NO.1408
'22.10.11

9月定例市議会報告

10月7日（金）9月定例市議会が終わりました。日本共産党市会議員団は提案された監査委員の選任を含む18件の議案（一件は先議済み）のうち、問題のある3議案について、南畑さち代議員が反対討論を行いました。反対討論は次のとおりです。

18議案中3件に反対

日本共産党市会議員団

日本共産党市会議員団を代表して議案3号、3号、17号に反対の立場で討論を行います。

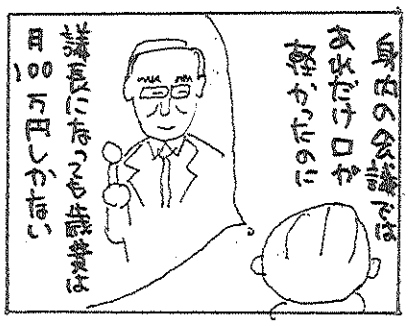
議案3号、一般会計補正予算（4号）について、債務負担行為中、小学校給食民間委託事業、放課後児童健全育成事業、第一共同調理場管理運営事業はいずれも民間への業務委託を事前にする議案となっています。教育はもちろんのことですが、これまで直営で行ってきた業務は公的責任を伴うものであり、その責任を果たすためにどんな努力をするのかが問われています。

現在、民間委託がどんどん進められていますが、そのことにより公務労働があるべきかの議論を十分に行わず、行政改革の一環として人件費を削減することが最優先されてきていると言わざるを得ません。

7款土木費、4項都市計画費中、和歌の浦魅力向上施設整備費に係る9870万円について、これは和歌山市歴史的風致維持向上計画に基づき、周辺施設の観光案内、歴史文化の情報発信施設を備えた、和歌の浦の核となる施設の整備を進めるためのものです。本事業については、これまでもサウンディング型市場調査をした結果、民間活力の導入が困難になるなど計画が二転三転した経緯がありました。今回、約1億円という多額の費用を計上し事業の進捗を図るものですが、今後の施設整備においても多額の費用が必要となるアベ氏が統一協会の会員票を差配していたとの証言もあります。統一協会と自民党の関係の中心にいたはずの両氏の役割を明らかにすることは癒着の全容究明に欠かせません。国会の議会運営委員会などの公開の場で一問一答の質問に答えることは「三権の長」と言われる衆院議長として最低限の責務です。それすら拒むのであれば、議長の資格はありません。

フツーの人々

<11912>



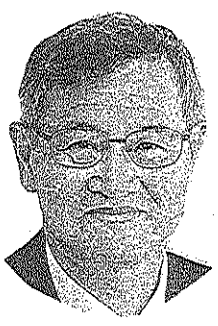
今週のフツーの人々

（その354）

細田衆院議長の説明責任

細田衆院議長が7日、統一協会・関係団体と自らの関係について再調査したとA4・2枚の文書を提出したものの会見も開かず自ら説明しようとしません。

細田衆院議長は、14～21年、自民党の派閥「清和政策研究会」の会長でした。同会は統一協会と強い関係を築いた岸信介元首相の流れをくみ、アベ氏を会長を務めました。



ひめだ高広

リます。耐震化など事業費の増加が考えられるとのことでしたが、そうした状況が生じた原因など、事業の効果を踏まえ全体の検討が不明瞭であり、計画に取り組む姿勢に問題があります。このような問題を含む議案2号には賛成できません。

議案3号、卸売市場特別会計について、中央卸売市場整備事業としての5000万円の債務負担行為は、市場の専用地における道の駅整備に係る基本計画の策定等を行う事業者の選定を行うための業務委託料です。補正で来年度からの費用を計上するのは予算の確約が必要で事業の担保性を持つものだとのことですが、基本計画も決まっていない段階で予め計上しておくというのは予算計上の仕方からみて妥当だとは思えません。また、今後の事業費のうち市が負担する予定金額は約10億円とのことです。これほどの費用をかけて道の駅を整備することの必要性が理解できません。不要不急事業とは思えないことから反対です。

議案5号、一般会計補正予算(6号)について、2項戸籍住民基本台帳費中、マイナンバーカード普及促進事業は、新型コロナウイルス感染症対策として、マイナンバーカード取得者を対象に3千円のクオカードを交付するものです。その目的は、マイナンバーカードの普及促進と物価高騰に対する生活支援ということですが、全く性格の異なる目的が一体化していることに違和感があります。そもそも物価高騰による生活への影響は、市民生活にかかっており、マイナンバーカード取得の意思のない方が、生活支援の対象から外れることは、不平等でありこのような事業の進め方は問題です。今年度中に1000%の交付率をめざす中、8月時点で43.5%と伸び悩んでいるのは、内閣府の調査でもあるように、個人情報の漏洩や紛失・盗難への不安が大きな理由といえます。導入から6年経ってもこのような懸念が続く中、3千円のクオカード支給で普及が進むとは思えず反対です。

以上を申し述べ反対討論とします。

こんにちは 日本共産党です

衆参代表質問

岸田首相の所信表明演説に対する各党の代表質問が衆参両院本会議で行われました。

日本共産党は志位書記長が参院で、小池書記局長が衆院で、小中学校給食の無償化など具体的に提案。大軍拡や沖縄の米軍新基地建設などでも認識を質しました。首相は、国葬や統一協会でも答えず、問題に正面から答えず、暮らしと営業を守るための提案にも応じません。国民に背を向ける岸田政権を追い詰めることが必要です。

ホント、本っておもしろい

「100歳で現役！」書き手・杉江松恋（光文社）は、今年10月1日で100歳になった現役の女性曲師・玉川祐子さんの波乱万丈人生をまとめた実話です。曲師というのは、浪曲の三味線を弾く仕事です。浪曲は、語りを担当する浪曲師と三味線の曲師の二人で息を合わせて作り上げる芸だということを初めて知りました。浪曲師に憧れる15歳下の女性浪曲師に入門、その後に曲師への転向。結婚・離婚・再婚・死別。現在は孫のような弟子と稽古を続け舞台に上がる玉川祐子さん。玉川さんの人生と浪曲史をのぞき見たようです。